

琉球大学学術リポジトリ

小学校における宿題の内容に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2022-04-05 キーワード (Ja): 宿題, 小学校, 内容, 種類, 学習指導 キーワード (En): 作成者: 浦内, 桜, 淡野, 将太, 越中, 康治 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002017869

小学校における宿題の内容に関する研究

浦内 桜¹⁾・淡野 将太²⁾・越中 康治³⁾

Contents of Homework in Elementary School

Sakura URAUCHI¹⁾, Syota TANNO²⁾ and Koji ETCHU³⁾

要 約

本研究は、小学校教師が学習者に課す宿題の内容を検討した。小学校教師が課している宿題について、小学校の各教科、日記、自主学習、音読、その他の欄を設け、それぞれどのような宿題を課しているのか自由記述形式の質問紙調査を行った。加えて、予習と復習ではどちらを優先して宿題を課しているのか尋ねた。その結果、各教科、日記、自主学習、音読、その他で課している宿題の内容が明らかになった。また、予習と復習では復習を優先して課していることが明らかになった。

キーワード：宿題、小学校、内容、種類、学習指導

問題と目的

本研究は小学校教師が学習者に課す宿題の内容を明らかにする。この検討を通じて、小学校教師の宿題を用いた学習指導に関する基礎的知見の蓄積が可能となる。以下では、宿題に関する研究を概観する。

宿題は、課外時間に行うことを意図した学校教師から課せられる課題と定義される (Cooper, 1989; Cooper, Robinson, & Patall, 2006)。この定義は学校における学習指導、メールやテレビやインターネット等を通じて提供される家庭学習課題、クラブへの参加などの課外活動を除外している。また、学習者は自習室 (study hall)、図書館、あるいは授業後の休憩時間等を用いて宿題を完了することができることを指している。宿題は目的 (purpose)、選択の程度 (degree of choice, i.e., 自発あるいは強制)、量、領域 (area, i.e., 技術領域あるいは専門領域)、完了期限 (deadline for completion, i.e., 長期または短期) あるいは社会的文脈 (social context, i.e., 個人あるいは2

者間あるいは集団) などによって多義的に議論されることがあるが (cf., Bas, Sentürk, & Cigerci 2017; Cooper et al., 2006)、本研究は一般的に用いられているこの定義を採用する (採用例として、Pandora, 2014; Sidhu & Fook, 2010; Urauchi & Tanno, in press; Zimmerman & Kitsantas, 2005)。例として、国語科の漢字練習、英語科の単語暗記などが挙げられる。

宿題の目的は、指導目標 (instructional) と非指導目標 (non-instructional) に分類できる (Bas et al., 2017; Becker & Epstein, 1982; Brewster & Fager, 2000; Chen & Stevenson, 1989; Cooper et al., 2006; Epstein, 1988; Epstein & Van Voorish, 2001; Xu, 2005; Zimmerman & Kitsantas, 2005; Zimmerman & Martinez-Pons, 1990)。指導目標は、復習 (review)、予習 (preparation)、拡張 (extension)、の機会を提供するため、非指導目標は、保護者と子どものコミュニケーション、学校の管理者からの指示を果たすこと、学習者を罰するためなどが挙げられる。宿題は、1つの目的のみで課せられることは

¹⁾ 琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

²⁾ 琉球大学教育学部 准教授

³⁾ 宮城教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 准教授

珍しく、ほとんどの宿題は、いくつかの指導目標に関連する中で、非指導目標も満たすことがある (Cooper et al., 2006)。

宿題は教育問題のひとつとして継続的に議論されてきた (Bas et al., 2017; Cooper et al., 2006; Gill & Schlossman, 2000; Trautwein, Köller, Schmitz, & Baumert, 2002)。歴史的に見たとき、宿題に対するアメリカ国民の態度は循環的だった。20世紀以前は、宿題は子どもの精神 (minds) を律するために重要であると信じられていた。1940年代には、ドリルによる学習とは対照的に、問題解決能力を発達させることが教育の中心的な課題となり、宿題に対する反動が始まった。また、社会適応 (life-adjustment) 教育は、家庭学習は他の家庭活動への侵入とみなした。1950年代後半には、ロシアのスプートニク衛星の打ち上げ成功により宿題の過小傾向は変容した。教育システムの厳格さの欠如により子ども達が複雑な技術的将来に立ち向かう準備が出来ていないことを懸念するようになり、宿題は知識獲得を早める手段であるとみなされるようになった。1960年代半ばには、当時の学習理論は再び宿題の価値を疑問視するとともに、精神的健康に有害な結果をもたらす可能性があるとして態度を逆転させた。1980年代半ばには、達成度テストの点数が低下し、グローバル市場での競争に対する懸念が高まったことをきっかけに再び宿題の見方は肯定的な評価に変化した。2000年代には、子どものストレスを懸念する保護者により反発が起きた (cf., Bas et al., 2017; Cooper et al., 2006; Gill & Schlossman, 2000; Goldstein, 1960)。

宿題を用いた学習指導に関する先行研究では、宿題の内容の重要性が示されている。Dettmers, Trautwein, Ludtke, Kunter, & Baumert (2010) は、3,483人の9年生と10年生を対象に、宿題の質が学習者の学習と宿題の行動に及ぼす影響を分析した。その結果、よく選択された (well-selection) 宿題、すなわち質の高い宿題はより高い動機づけ (homework motivation)、より高い宿題行動 (homework behavior) と関連しており、それらが学習に効果的であることを示した。このことからDettmers et al. (2010) は、教師は、宿題の課題を最適化することで、指導の効果を向

上させることができると考察している。また、学習に困難を抱えている学習者や学習障害がある学習者により多くの内容の課題を課すことをきっかけに、保護者と学習者の関係悪化を招くことになりうるということが指摘されている (e.g., Cooper et al., 2006)。その傍ら、学業成績が良い学習者は課題が簡単すぎると勉強を退屈だと感じてしまう恐れがある (e.g., Galloway, Conner, & Pope, 2013)。Catalano & Catalano (2017) は、成績が低い学習者はその他の学習者と比較して宿題により多くの時間を費やさなければならず、心的負荷も大きいことを指摘した。

このような中で、教師が課している宿題を検討した研究がなされてきた。Brock, Lapp, Flood, Fisher, & Han (2007) は、アメリカのkindergartenからmiddle schoolまでの教師133人を対象に教師が課す宿題の種類 (kind) の調査を行なった。その結果、数学演習 (math practice)、書き取り (spelling)、読み (reading) などのスキルベース (skills based) の課題を課していることを明らかにした。Sidhu & Fook (2010) は、教科担任制であるマレーシアの小学校教師297人を対象に小学校における宿題の構築 (the organization of homework) に関する教師の実践 (practices) と観点を検討する中で、どのようなタイプ (types) の宿題を課すのかについて12項目の質問項目を用いて調査を行った。その結果、一般的な宿題のタイプは、誤答修正 (corrections) や補強 (enrichment) の演習ベースの課題 (practice based tasks)、書き取り (spelling, dictation) の暗記活動 (memorization activities) であることを示した。さらに、マレー語 (Bahasa Malaysia) 教師は主に演習 (practice) や文法演習 (grammar exercises) を課していること、数学教師は主に演習 (practice)、強化 (reinforcement) をするための宿題を課していること、マンダリン語 (Mandarin) 教師は主に授業で学んだことを促進するためにライティングや文法ベースの課題を課すことを明らかにした。

方法

対象者 小学校の現役教師48名 (女性28名, 男

性20名)を対象に質問紙調査を行なった。回答率は100% ($N = 48/48$) だった。欠損値はなかった。対象者の平均年齢は33.15歳 ($SD = 8.37$), 平均教師経験年数は10.19年 ($SD = 7.31$) だった。

手続き 自由記述を行う質問紙調査を行なった。小学校単位および個別で小学校の現役教師に依頼し調査を実施した。それぞれ郵送により質問紙を配布し、回収した。

倫理的配慮 本研究への協力に同意した者を調査対象とした。調査にあたり、(a)調査は無記名であり回答は任意であること、(b)回答の拒否や中断は可能であること、(c)得られた回答内容は研究以外の目的には使用しないことの3点を教示した。

質問紙 小学校教師が課す宿題の内容について、対象者は、「どのような宿題を課していますか」、「予習と復習ではどれを優先して宿題を出し

ていますか」の問いに答えた。「どのような宿題を課していますか」という問いについては、小学校で用いられている教科名を記し、その教科ではどのような宿題を課しているのかを尋ねた。また、浦内・淡野(2020)は、教師の宿題を用いた学習指導がどのように行われているか検討するためインタビュー調査を行った結果、教科に関する宿題の他に日記と自主学習、音読を課している教師がいることを明らかにした。これを踏まえ、質問紙には日記、自主学習、音読、その他の欄を設け、どのような宿題を課しているのか尋ねた。

結果

宿題の内容の結果をTable 1に示す。得られた宿題の内容の横に回答した人数を表記した。例え

Table 1 小学校教師が課している宿題の内容

国語	漢字ドリル(24), 漢字ノート(13), 漢字練習(ノートに)(13), 言葉の復習(敬語の成り立ち, 音読み訓読みなど)(7), プリント(6), 視写(5), 月刊プリント(2), 文作り(2), 漢字スキルなど(2), 辞書引き(2), 言葉集め(1), 美文字うつし(1), 作文の清書(1)
社会	テスト前等に復習する内容(4), 調べ学習(歴史, 沖縄について, 自動車づくりについてなど)(4), 月刊プリント(2), 新聞づくり(2), 社会科ノートの調べ学習(例 どのような店でどんな物を買っているか調べよう)(2)
算数	プリント(18), 計算ドリル(18), ドリル(13), 現在学習している内容(11), 計算練習(8), 教科書の問題(2), 月刊プリント(2), 算数ドリル(2), 作図(円, 三角形他)(1), スキル(2), 問題づくり(2), 間違いなおし(2), ワークなど(2)
理科	テスト前等に復習する内容(4), 月刊プリント(4), 理科ノート(1)
音楽	リコーダー練習(11), 自作プリント(音符を覚える)(2), 歌を覚えてくる(2), 朗読(2)
家庭科	月刊プリント(3), 家でのお手伝い(片付けとか調理とか)(3), おうちの人への聞き取り(家の仕事調べ)(2), 学習内容(2)
体育	運動会前などに筋トレ(2), 縄跳び練習(2), 鉄棒練習など(1)
外国語活動・外国語	あいさつ等かんたんな会話文を家庭で使ってみよう(2), ローマ字の定着(2), アルファベットの練習(大文字, 小文字)(2)
総合的な学習の時間	ダンス(運動会の時)(1)
特別活動	イベントの時などのダンス練習(1)
日記	行事(運動会や学習発表のこと)(9), 休日にあったこと(5), お題は自由(5), 長期休暇などにそのことについての記述をさせる(2), クラスのことなどで考えて欲しいこと(1), 学校の授業などについて(1), 一言日記(1)
自主学習	児童の興味のあることについて(20), 自由課題(11), テストプリントの復習(4), 自分の苦手や豆知識(2), 間違いなおし(2), テスト前学習(2), 視写(1), 創作物など(1)
音読	国語で学習している題材(14), 国語の教科書の段落や場面(11), 今学習している単元(6), 今月の詩(4), 次の単元を先読み(物語, 説明文)(2), 好きな話等(2), 計算カード(1)
その他	早寝早起き(1), 一枚作文(1)

ば、漢字ドリルと回答した対象者が24名であり、「漢字ドリル(24)」と表記した。図画工作、特別の教科 道徳においては、記述がなかったため記載していない。なお、表中の記載は全て小学校教師の回答をそのまま用いている。「予習と復習ではどれを優先して宿題を出していますか」という質問内容に対する回答は、予習4名、復習44名であった。二項検定の結果、復習が予習より多かった ($p < .01$)。

考察

本研究は、小学校教師が学習者に課す宿題の内容を明らかにした。その結果、各教科、日記、自主学習、音読、その他で課している宿題の内容を明らかにした。また、予習と復習では、復習を優先して課していることを示した。

宿題を課す際には質を考慮することが重要である。La Conte(1981) は、演習課題 (practice exercises) は個人差が大きいため、効果的に使用するには各学習者のレベルに基づくべきであること、また定期的なドリル課題は、その価値が疑わしいとされており、特に有能な学習者 (able learner) には逆効果になる可能性があること、機械的な運動 (mechanical exercises) は、有能な学習者を退屈させ、イライラさせ、時に友人の宿題のコピーや不正行為につながる傾向があることを指摘した。Cooper(1989) は宿題のネガティブな影響として、宿題が勉強を飽きさせてしまう可能性があること、宿題は余暇時間および地域活動への参加を子どもに我慢させてしまうこと、友人の宿題を転載したり過剰な助言をしたりするなどチート行為によって望ましくない人物特性の習得につながることを指摘している。Gallowayの宿題に関する一連の研究 (Galloway & Pope, 2007; Galloway et al., 2013) は、調査を行い宿題が増加するほど学習者のストレスが増加することを示している。もちろん、宿題は教育活動における普遍的な課題のひとつであり、関係者のストレスや不平不満が増加するとしても必要に応じて学習者に対して課すものであるが、学習指導として宿題を用いているにも関わらず、宿題そのものがチート行為を招いたり、学習者のストレス

が増加したりし得る。上述のようにDettmers et al.(2010) は、よく選択された宿題、すなわち質の高い宿題はより高い動機づけ、より高い宿題行動と関連しており、それらが学習に効果的であることを示し、宿題の課題を最適化することで、指導の効果を向上させることができると示唆した。さらに、太田の宿題に関する一連の研究 (太田, 2019; 太田・山野井, 2019) は、宿題設計の重要性を指摘している。例えば、太田・山野井 (2019) は、高校生を対象に、数学の公式や定理が成り立つ理由の理解に焦点を当てた宿題の開発と実践を行ない、授業と連動した宿題設計が授業外学習での意味理解に向けた足場かけとしての役割を果たすことを示唆した。

これらを総合して、学習者の特性等に応じて小学校教師が宿題の内容を考慮し、宿題の運用に配慮することが重要であると言える。本研究では、小学校教師は予習より復習課題を優先していることを示した。したがって小学校教師の宿題を用いた学習指導は復習課題の設計や内容を考慮する必要がある。

引用文献

- Bas, G., Sentürk, C., & Cigerci, F.M. (2017). Homework and academic achievement: A meta-analytic review of research. *Issues in Educational Research*, 27, 31-50.
- Becker, H. J., & Epstein, J. L. (1982). Parent involvement: A survey of teacher practices. *Elementary School Journal*, 83, 85-102. <https://doi.org/10.1086/461297>
- Brewster, C., & Fager, J. (2000). *Increasing student engagement and motivation: From time-on-task to homework*. Portland: Northwest Regional Educational Laboratory.
- Brock, C., Lapp, D., Flood, J., Fisher, D., & Han, K. (2007). Does homework matter? An investigation of teacher perceptions about homework practice for children from nondominant backgrounds. *Urban Education*, 42(4), 349-372. 10.1177/0042085907304277
- Catalano, H., & Catalano, C. (2018). Quantitative

- study on the usefulness of homework in primary education. *LUMEN Proceedings*, 3, 129-136. <https://doi.org/10.18662/lumproc.nashs2017.11>
- Chen, C., & Stevenson, H. W. (1989). Homework : A cross-cultural examination. *Child Development*, 60, 551-561. <https://doi.org/10.2307/1130721>
- Cooper, H. (1989). *Homework*. White Plains, New York: Longman.
- Cooper, H., Robinson, J. C., & Patall, E. A. (2006). Does homework improve academic achievement? A synthesis of research. *Review of Educational Research*, 76, 1-62. <https://doi.org/10.3102/00346543076001001>
- Dettmers, S., Trautwein, U., Lüdtke, O., Kunter, M., & Baumert, J. (2010). Homework works if homework quality is high: Using multilevel modeling to predict the development of achievement in mathematics. *Journal of Educational Psychology*, 102, 467-482. <http://dx.doi.org/10.1037/a0018453>
- Epstein, J. L. (1988). Homework practices, achievements, and behaviors of elementary school students. *Elementary and Middle Schools*, 26, 6-25.
- Epstein, J. L., & Van Voorhis, F. L. (2001). More than minutes: Teachers' roles in designing homework. *Educational Psychologist*, 36, 181-193. https://doi.org/10.1207/S15326985EP3603_4
- Galloway, M. K., & Pope, D. (2007). Hazardous homework? The relationship between homework, goal orientation, and well-being in adolescence. *Encounter*, 20, 25-31. <https://doi.org/10.1080/00220973.2012.745469>
- Galoway, M. K., Conner, J., & Pope, D. (2013). Nonacademic effects of homework in privileged, high performing High Schools. *Experimental Education*, 81, 490-510. <https://doi.org/10.1080/00220973.2012.745469>
- Gill, B. P., & Schlossman, S. L. (2000). The lost cause of homework reform. *American Journal of Education*, 109, 27-62. <https://doi.org/10.1086/444258>
- Goldstein, A. (1960). Does homework help? A review of research. *Elementary School Journal*, 60, 212-224. <https://doi.org/10.1086/459804>
- La conte, R. T. (1981). *Homework as a learning experience*. Washington, D.C.: National Education Association.
- 太田絵梨子 (2019). 学習における宿題の役割に関する心理学的検討 教育実践学研究, 20, 27-39. https://doi.org/10.34587/jsep.20.2_27
- 太田絵梨子・山野井俊介 (2019). 意味理解を重視した宿題の開発と授業との連動—高校数学を対象として 日本教育工学会論文誌 43, 151-165. <https://doi.org/10.15077/jjet.43040>
- Pandora, D. (2014). Teachers' beliefs and practices regarding homework: An examination of the cognitive domain embedded in third grade mathematics homework. *Thesis and Dissertations*, 450, 1 -197.
- Sidhu, G. K., & Fook, C. Y. (2010). Organization of homework: Malaysian teacher's practices and perspectives. *Journal of International Studies*, 13, 63-78.
- Trautwein, U., Köller, O., Schmitz, B. & Baumert, J. (2002). Do homework assignments enhance achievement? A multilevel analysis in 7th-grade mathematics. *Contemporary Educational Psychology*, 27(1), 26-50. <http://dx.doi.org/10.1006/ceps.2001.1084>
- 浦内 桜・淡野将太 (2020). 小学校教師の宿題を用いた学習指導 琉球大学教育学部紀要, 97, 271-274.
- Urauchi, S., & Tanno, S. (in press). Homework and teacher: Relationships between elementary school teachers' beliefs in homework and homework assignments. *Japanese Psychological Research*.
- Xu, J. (2005). Purposes for doing homework reported by middle and high school students. *Journal of Educational Research*, 99, 46-55. <https://doi.org/10.3200/JOER.99.1.46-55>
- Zimmerman, B. J., & Kitsantas, A. (2005).

Homework practices and academic achievement: The mediating role of self-efficacy and perceived responsibility beliefs. *Contemporary Educational Psychology*, 30, 397-417. <https://doi.org/10.1016/j.cedpsych.2005.05.003>

Zimmerman, B. J., & Martinez-Pons, M. (1990). Student differences in self-regulated learning: Relating grade, sex, and giftedness to self-efficacy and strategy use. *Journal of Educational Psychology*, 82, 51-59. <https://doi.apa.org/doi/10.1037/0022-0663.82.1.5>